

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「私は若い頃は製図の仕事をしてたんですよ。仕事はとて面白かったです。ええ、戦時中にも製図の仕事がありました。色々な機械の製図でね…」 さんの話は延々と続く。

今、このホームが最も力を入れている事の一つに、「その人の歩んで来た道を知ろう」という試みがある。個人ファイルの最後には、その人の生まれてから今日までに至る「人生歴」を本人に成り代わって書いたと言う数枚の文章がある。職員は本人や家族から、時間をかけてしっかり聞き出している。将来的には一人ひとりの個人史やビデオレターとしてまとめたいと言う。一人の人間としっかり向き合って付き合おうとする時、欠かせないことと思うのに、ここまで真剣に相手しているホームに未だ出会っていない。

さんが光り輝いていた時の余韻をも大切に、職員は遠方の図書館まで通う。もう本は読めない状態と思うのに本を借りる彼女を温かく見守る職員に、家庭の立場としての私は頭の下がる思いがする。

職員の利用者に対する思いの強さに気を取られてしまいがちだが、このホームの外観から屋内のあちこちに工夫された和風のたたずまいには驚かされる。「これがグループホームか？」と思えるような作り手のこだわりを、利用者、職員とも上手に引き継いで、利用者が生けた生花に象徴されるような「上品でおだやか」な日々を継続している。

認知症ケア対策はまだこれからといった意識の管理者や職員の、たくさんの場での意見交換から生まれた新しい取り組み、そしてその成果を楽しみにしている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

利用者の状態の重度化に伴い、省略できる事や協力して貰える事など柔軟に取り入れ、職員の負担を少しでも少なくして下さい。

勿論、研修やグループホーム内での切磋琢磨は他に類がない位良く出来ているが、グループ外のホーム等との交流を増やせたらと思います。視点の違いも十分参考になるでしょう。

家族との交流や協力については、強く願っている様子がよく窺われるし、その為の取掛かりは揃めているので、今後もそのチャンスを上手く生かして、少しずつ広げていって下さい。

近くの住民の人のお付き合いは立地条件から見てもなかなか難しい。しかし、町内会や老人クラブの人達とのつながりやご近所さんとの触れ合いは、少しでも多く増やして下さい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

身体的なケアは勿論だが、その人の心の深い部分にまで寄り添ってケアする為に、また、一人ひとりのプライバシーを尊重する為には、「その人の今」だけでなく「その人の全体像」を知る必要がある。この事は今までにも、そしてどこでも言い続けられてきた事だが、このホームでは「一人ひとりの人生歴を探ること」に力を入れている。本当に大切な事だと思う。

これだけの下地を作ってから、「さて、相当に心身の状態が重度化してくる今後、一人ひとりが日々をどんな喜びや楽しみを感じながら暮らしていくか」につなげていく事が課題となるだろう。職員の側の思い込みや思い付きでなく、意思表示がしにくくなった認知症の人の本心に限りなく近づく試行錯誤を、このホームの職員が見せてくれるのではないかと楽しみにしている。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か

職員はより質の高いサービスを常に念頭に置いて、日夜努力している様子がよく窺われる。その一つに家族との相談記録がある。いずれのホームも家族とのコンタクトは重視したいと希望しながらも、出来ていない所が多い。しかし、このホームの相談記録は会話体でとても分かり易い。スタッフの対応も詳しく書かれている。この相談記録のシステムをベースに、家族のやりとりの幅をもっと広め、雑談や話しかけの中から、家族側からの希望や提案を引き出してはどうか。内容的には苦情箱の設置に勝るものとなるだろう。記録はメモで良く、中身を発展的に捉えて行くようにすれば、より家族とのタイアップしたホームになっていくのではないかと、

次に、職員間でケアカンファレンスが良く出来ていることがあげられる。例えば「リーダー会ノート」の記録から「どうやって、ぎりぎりまで口から食べて頂くか?」「ミキサー食で、私達でも美味しく食べられるレシピを考え、実際に食べて報告しよう」等、積極的、意欲的な姿勢が窺われる。ヒヤリハットの記録もこれから聞いた。職員間の意見交換の場が多く、色々な試みをすぐ実行して見ようとする原動力がこのホームをより高めていると感じた。

事業所名 新賀 (きのこのき)

日付 平成18年3月17日
特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 在宅介護経験14年、家族の会代表経験7年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	開設してから5年になろうとしている現在、利用者の心身の状態にも変化が見られ、グループホームとしての新たな展開にも対応しなければならない状況になっている。もう既に一人の利用者を看取り、葬儀の時にスクリーンに大きく映し出されたホームでのその人の幸せそうな顔に涙した職員の話や胃ろうの人、介助なしに立つ事さえ出来ない人への対応を見るにつけて「どんな状況になっても、気持ち良いこのホームで楽しくのんびり過ごしましょうね」という職員の強い思いが伝わってくる。		
	また、こうした事実の裏に、職員達の「より良いグループホーム」を目指す為の色々な工夫や試行が見え隠れする。メール交換、交換日記、ナイトケア等、職員同志言いたい事を遠慮なしに言える関係作りの工夫をしたりしている事も、その目標の為の要になっているのかも知れない。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	老舗の料亭が旅館に見紛うような作りの建物や庭、内装、広い洗面、トイレ付きのしゃれた居室は、和風の雰囲気や好む利用者にとっては、とても幸せな生活の場となっている。		
	利用者も職員もこの雰囲気を大切にし、穏やかでゆったりとした暮らしを続ける為の工夫や努力があちこちに窺われた。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		